

川柳は 5・7・5 の自画像

—その 2—

佐々木晃彦

文化世相作家

はじめに

65 歳定年で仕事場から退場勧告を受けた私は、大好きなトロンボーンを手に「音さがし」の世界に入り、そして今は「言葉さがし」に取り組んでいる。その舞台に前者はビッグバンド、後者は川柳を選んだ。川柳を選んだ理由だが、前々から土曜日の新聞で目にする「時事川柳欄」に惹かれていた。なお、本文紙面の構成上、前月号に掲載の川柳、数句が含まれていること、ご了承いただきたい。

1 句に映る読者の世相感

1 - 1 読者の声

土曜の朝は、緩やかなウィーク・デーでも 5 日間の縛りから身を解かれる、一週間のなかで一息を入れたくなる時間だ。私が読んでいる新聞の「土曜朝刊人気コーナー ベスト 7」を“読者の声”とともに読むと、「記事に載った本を買いたい」(30 代男性)、「読んだことのない本でも色々な人の感想を読むと世界が広がる」(60 代女性)との“声”もあって読書面(26.8%)が 1 位、続いて 2 位が「井戸端会議のようで面白い」(80 歳以上男性)と特報面(19.2%)、そして、社説・発言面(13.6%)、暮らし面(10.8%)が続き、時事川柳(9.4%)は 5 位となっている。「社会情勢が分かり易い」(60 代男性)、「何時も読んで笑っている」(80 歳以上女性)、「読者と新聞を繋ぐ窓のようなもの」(60 代男性)、「機転を利かせた言葉を楽しんでいる」(70 代男性)など推薦の声はさまざま。私が詠む際に気を付けている事柄が、川柳への期待を込めた読み手からビシビシ伝わってくる。「俳句を詠む時のヒントになっている」(70 代男性)、「その時の問題を的確に川柳に出来る人は凄いなと思う」(70 代女性)(東京新聞、2024 年 9 月 1 日)などと伺うと、初心者のわが身を振り

返り、読者が持つ意識の高さに多少の責任を感じて怖気づく。(創作で川柳への理解を深め、理解を深めることで創作意欲が一層高まる。よって百難突破だ)。俳人・エッセイストの夏井いつきが、詠み手から折りおりの状況を聞いた後に、「そのことを詠めば良いのよ」、時には「何を言いたいのか・・・そんなことを書いている場合じゃないでしょ!」「出直してきなさい!」と強く注意を促している。川柳の場合は「読者の声」にあるように、詠み込んだ状況説明がなくても読み手に即伝わる必要がある。それでも、後述するが、「この句はデータを示した方が親切だろうな」と思う句には、それなりの数値を示し、注意書きを付けて説明することもある。ところで、川柳に漫画を添えるとどうなるだろう。

1 - 2 川柳 + 漫画

前回の拙文でも触れたが、私は詠まれた川柳が映像化できること、これを大切にしてきた。その効果を予測していても、新聞の時事川柳で拙句が取り上げられ、横に迫力満点の漫画を見た時は「開いた口へ牡丹餅」の心境でした。どうあがいても、私の力量では人の表情やシチュエーションを5・7・5の17文字で伝えるのは難しい。絵があることで《うがち》《おかしみ》《軽み》は一気に身体に入る。絵の効力は絶大である。ここでの“言葉の川柳”と“絵の漫画”の関係性とは比較できないことかも知れないが、“言葉の作詞”と“音の作曲”の関りに想いは飛んでしまう。

夏バテで

俺は冷麦

妻鰻(うなぎ)



(東京新聞、2024年8月31日)

実は、川柳＋漫画の表現手法には、前々から関心を寄せて来たが、それはさておき、「言葉は今という時代を映し出します」。三省堂国語辞典の編集委員を務める飯間浩明は「時代の変化とともに新しい言葉が生まれ、広く使われるようになる。言葉が変わらないと変化する世の中を表現できなくなる」と語る。街に言葉を探しに行き、辞書が取りこぼしている面白い言葉に出合ったら写真を撮り、スマートフォンに直ぐメモをし、改定時には厳選した数千語を追加する。

私は目的に適う微妙なニュアンスの違いが欲しくなり、「誰が読んでも分かって戴ける言葉だろうか」と自問自答しながら辞典と真剣に向き合う。しかし、いくら真剣でも、ただ、それだけの行為に留まる。その上、辞典が市場に出回った時は、飯間が行っていることから周回遅れになっている。書棚には数十冊の辞典・辞書が並んでいるが、ずいぶんと年季の入ったものが多い。殆どが一冊数千円するので、一度購入すれば何年も使用することになる。数十年遅れの辞典を捲りながら、詠んだ折りの状況に最も相応しいと思われる言葉をさがしている(このタイムギャップ、何か、ヤツテルことが可笑しいぞ)。

1-3 川柳＋(注)

時事川柳の「命」は2か月と言われる。せっかく詠んでも2か月経てば「これは何がテーマなの?」、或いは「何故この句を詠んだの?」となる。川柳は陽射しのように、水音のように、瞬時に受け入れられるべきものだ。しかし、その時時の問題が次々と表出するから致し方ないが、周辺環境の移り変わりが余りに早い。労力を注ぐ割に、時事川柳の生命は60日、儂く短い。詠んだ本人が“これは何がテーマだっけ?”と頭を抱えることも頻繁にある(あ～あ、人生は平坦にあらず)。解決策として『川柳ノート』をつくり、メモ書きで(注)表記を付けている。幾つかの例を、詠んだ年月と一緒に示す。

- | | |
|---------------------------------|------|
| サハラでは 時流れても 時刻なし(2019年2月) | (注1) |
| 軽石に挑む こちらは重い意志(2021年12月) | (注2) |
| マイナンバー俺はいらない牛じゃない(2022年1月) | (注3) |
| 制服が厭と不服の新入生(2023年4月) | (注4) |
| 寝る間なくノルマあります JA 共済(2023年6月) | (注5) |
| 元理事の 四度の逮捕は日本新(2023年11月) | (注6) |
| ロジハラに エイハラ リモハラ もうハラハラ(2024年1月) | (注7) |

神宮の伐採計画 木が木じゃない(2024年4月)	(注8)
諭吉から 私のこころ栄一に(2024年5月)	(注9)
優勝の右腕になるサウスポー(2024年6月)	(注10)
生い先を知らずに泳ぐ出世魚(2024年6月)	(注11)

(注1)20代後半の青春をサハラ砂漠で過ごしたが、時計を持っている人はいなかった。各家庭にも柱時計や置時計はなかった。ありきたりの時計なら、サハラ砂漠特有の細かな砂で直ぐ壊れるだろう。参照：「砂と海と太陽とーサハラの挙式ー」(財)昭和経済研究所 Web マガジン、2024年6月号)

(注2)小笠原諸島の海底噴火で発生した軽石が、伊豆諸島の式根島漁港(東京都新島村)に漂着した。大きいもので直径1センチ程度あり、オイルフェンスを設置する。既に鹿児島、沖縄県の港でも確認され、海洋研究開発機構は黒潮に乗った軽石が、11月に関東地方沖合に到達すると予測している。

(注3)畜主は牛の出生と同時に10桁の個体識別番号を記すタグ、耳標を装着し、個体識別センター(家畜改良センター)に報告する義務がある。飼育施設所在地、飼育開始(終了)年月日、性別、異動記録を把握することで、①安全性確保(例：BSE)、②産地偽装対策他に対応する。

(注4)高額な制服が問題になっている。制服(春・秋・冬)+冬用オーバー、夏服+体操服(+シューズ)・・・成長期にあっては同サイズでの3年間着用ができず、半年しか使用できない場合もある。ブレザーは高価で洗濯しにくく、直ぐサイズアウトになる。貧富の差対応から、制服の選択制やジャージに統一することへの検討が課題になっている。

(注5)共済契約での過大なノルマがもたらす①職員に依る自爆営業、②顧客への不適切契約の勧誘が問題になった。JA共済の保有契約高は、日本生命(153兆円)、JA共済(91兆円)、第一生命(88兆円)、住友生命(69兆円)、明治安田生命(66兆円)、と大手生保に匹敵する(JA共済連、農水省資料)。

(注6)東京五輪のスポンサー企業から賄賂を受け取ったとして、東京地検特捜部は受託収賄容疑で、大会組織委員会元理事の高橋治之被告(当時79歳)を4回逮捕した。贈賄側は、①紳士服大手 AOKI ホールディングス、②出版大手 KADOKAWA ③広告会社大広、④広告大手 ADK ホールディングス、⑤大会マスコットのぬいぐ

るみを販売したサン・アロー。筆者の類想句・類似句に「聖火消え不審火残る五輪村」「東京五輪 裏が際立ち おもてなし」「バッハさん ソナタは解せぬ要変調」

(注 7)ハラハラ(=harassment harassment)業務上適切な指導であるにも関わらず、ハラスメントと騒ぎ立てる行為。本人の被害者意識が強く、指導とハラスメントの区別が分かっていない。良かれと思って指導したのに逆恨みされ、コミュニケーション不全に陥る可能性は大きい。

(注 8)明治神宮外苑の再開発を巡り、事業者(代表：三井不動産)が東京都の審議会に、伐採する樹木の本数削減を盛り込んだ環境影響評価(アセスメント)書変更届を提出しなかった。事業者は9月に樹木伐採を始める予定だったが、都は「既存樹木の保全検討結果が示されていない」として、伐採前に保全の具体策を示すよう求めた。

(注 9)表面・福沢諭吉(1835～1901)、裏面・雉のD券(1984年発行)、及び、裏面・平等院鳳凰堂像のE券(2004年発行)から、表面・渋沢栄一(1840～1931)、裏面・東京駅丸の内駅舎のF券仕様になる。F券製造開始は2021年9月、発行は2024年7月。新札発行の目的は①偽造対策の強化、②ユニバーサルデザインの向上。

(注 10)シーズンによって異なるが、中日・大野雄大、小笠原慎之介、横浜・東克樹、ヤクルト・石川雅規、ロッテ・小島和哉、SB・和田毅、楽天・早川隆久、オリックス・宮城大弥など。

(注 11)関東・関西圏など地域で名称が違う場合もあるが、例えば、①チンチン⇒カイズ⇒クロダイ、②モシャコ⇒ワカシ⇒イナダ⇒ワラサ⇒ブリ、③セイゴ⇒フッコ⇒スズキ、④シンコ⇒コハダ⇒コンゴウイワシ、⑤オボコ⇒イナ⇒ボラ⇒トド、⑥カキノタネ(メジ、ダルマ)⇒チュウボウ⇒マグロ、⑦ショッコ⇒シオゴ⇒アカハナ⇒カンパチ

2 シルバー川柳考察

2-1 いつまでも恋心

さて、何事によらず適齢期がある。適齢期は何かをするのに最適な年齢で、必要となる能力が備わっている時期。一例を示せば、子供には幼稚園で、あるいは小学校で新しい学習を始めるのに適した時期、適齢期があるだろう。

日本では森林も少子高齢化の域にある。若齢の森林が少なく、収穫適齢期を迎えている森林が半数以上占めているからだ。これは、自国の森林資源を使わず、利用する木材の70%以上を輸入に頼ってきたことに依拠している。

転職適齢期という言葉が最近聞いた。私事で恐縮だが不肖私は、18歳で東京都大田区の町工場で旋盤工として働き、以来、縁あって拾われ、また拾われ・・・、広告プロダクション、水産界、精密機器業界、生活産業界、最後は大学と、遊牧民のように渡り歩いた。その節目を思い起こすと、転職するのに相応しい時期であるか否か、そのような思いに耽る悠長な状況にはなかった。

さて、最近足が上がり、しばしば転びそうになる。これは紛れもなく転倒適齢期に入っている。食欲が無くなれば、食欲減退適齢期・・・か。65歳以上の高齢者は3625万人で総人口の29.3%、80歳以上になると1290万人で同10.4%おられる(総務省、2024年)。単身高齢者世帯は873万世帯で、認知症高齢者の一人暮らしも多い(厚生労働省、2022年)。これを、お一人さま適齢期と呼ぼう。これらの適齢期では①高血圧や糖尿病など持病の悪化、②視力や運動能力低下で段差に躓き、濡れた床や道で滑って転ぶ、③居場所が分からず迷子になり徘徊する、④食事が不規則になり、薬の飲み忘れや飲み過ぎなど生活習慣と服薬管理が悪化する、⑤金銭管理が出来ないなど諸々のリスクが考えられる。

このような〇〇適齢期を肯定的に捉え、そこから今をどう生きるべきか見つめなおす。人生の後半にそっと、静かに、確実に訪れる心身の老化現象に気づき、誤作動する脳を優しくなだめながら、明るく笑い飛ばして楽しむ。過去に感謝し、現在に満足し、その結果として、未来に希望の息吹が与えられる。毎朝が人生のスタートライン、毎朝が誕生日。この瞬間、この一息に全力投球だ。ようこそ〇〇適齢期！

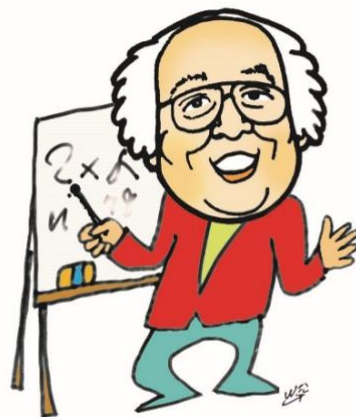
さまざまな門 開け閉めし 今がある

手離せず積んどく書籍 塵化粧

出不精が自粛してると褒められる

よくこぼす俺は食べもの妻は愚痴

敵になり味方にもなり共白髪



時時の 宝の山は ゴミの山

いまゴミも 昔の宝捨てられぬ

下がるまで何度も計る 血圧計

長生きは厭と触れ込み 医者通い

はしごする昔スナックいま病院

腹七分 残した三分に薬入れ

最近の飲み代高い 薬代

名前出ず笑顔で誤魔化す町内会

長続きしない 本音を語る会

挨拶を交わしたあの人 誰だっけ？

表面的には加齢現象を嘆く振りをしながら、胸を張り、今までの生き方を誇示する川柳。目指すは心意気の溢れる川柳。人生に最後が来るのは当たり前と認め、〇〇適齢期を“めげるな、自分よ！”と言ひ聞かせ、恋心まで持ち続ける。そして、詠み手の言葉は、読み手の心を軽くする。

80歳に手が届く年齢になると、否応なしに耳に入る話題がある。埋葬方法で、様々な種類がある。①お墓を建てる、②納骨堂に納める、③樹木葬、④合祀墓、⑤自宅で手元供養、⑥海に散骨などだ。最近の「お墓文化」は激変である。2020年からランキング1位は樹木葬(48.7%)、2位が墓石型の一般墓(21.8%)と逆転した。樹木葬には区画が分かれていない合祀型やペットとの合葬タイプもある。ああ、愛しい加齢よ、未来は明るい。いつまでも川柳を創り続けるぞ！

お仏さん墓守去って放っとけさん

墓じまい増えてお墓の墓場増え

高齢化続けば俺は若いまま

先逝けば 浮気するぞと威す俺

ボケ結構 早くあのこと忘れたい

一日は長く 人生は束の間

2-2 わたしを束ねないで

戦後を代表する女性詩人の新川和江が亡くなった(1929~2024)。〈私を名付けないで/娘という名 妻という名/重々しい母という名でしつらえた座に/座りきりにさせないでください わたしは風/りんごの木と/泉のありかを知っている風〉これは「わたしを束ねないで」の一節です。発表された1966年、新川は37歳だった。詩の自律性とあらゆる存在のより良い生の伸長を願う詩想が、作品世界に示されている。

川柳も低流する感情は一緒と思う。川柳の価値は、詠み人が自由に言葉を紡ぐことにある。自由であるから、川柳を自己治癒、自己救済として詠むこともある。だから、

縁談を上手くまとめたお腹の子

結婚も胸のときめき挙式まで

留年に恩赦ないの?と泣く学生

と詠んでも、「あなたは出来婚なの?」「あなたの結婚生活は、そんな風になっているの?それとも皆がこのような状況にあると思っているの?」「学生に泣かれてどうしたの?結局、単位をあげたんですか?」などとは、お願いです、聞かないで下さい。難しいことですが、私は川柳を詠んでいます。的確な言葉をさがし、【真】と【虚】を程よく絡ませた世界を創りたいのです。

お褒め戴きたく誰かに読んで貰うのではなく、自分に依る自分のための川柳です。私は食べ物でお腹を満たし、川柳で心を満たしたいのです。しかし残念なことに、日常生活は納得できることばかりではなく、たくさんの首肯し難いこととも対峙する。一例をあげれば私たちは、国の在り方を変える殺傷兵器の輸出解禁を、政府見解や与党協議だけで勝手に決める国に住んでいる。だから、怒り、憎しみ、悲しみと向き合い、時には「これって変だね」と思いながら、5・7・5の自画像を描いている。

習体制 権威主義の集大成

木更津のオスプレイたち来て去らず

意味不明 平和のためと武器を買う

国会で昼はグッスリ夜ピンピン

国会で野次はしません 寝てるんで

物価伸び 身が縮みます長寿国

寝ちゃいけない一泊 5 万するホテル

大寒波 続く我が家の台所

海よりも深い愛より欲しい金

3 言葉の光る道を求めて

3-1 言葉は人を繋ぐか

「音にまつわる通説がはびこる音声社会のなか、ぼくは眼で聴いて生きている。聾の身体であることに躊躇いは一切ない」。先天性観音性難聴で生まれた、写真家、エッセイストで、障害者プロレスラー陽ノ道としてリングにも上がる斎藤陽道(1983年、東京生)は語る。しかし、「聴力があることを前提とした無数の物語から、爪弾きにされる阻害感拭えない」とも。斎藤の妻も聾者である。それは事実だ。しかし、斎藤からすれば、それは妻のホンの僅かな一部に過ぎない。

言葉は人を繋ぐのか、それとも分離するのか。斎藤は「言葉は存在を分離する」と言い切る。「男性」「女性」、「聾者(聴覚障害者)」「聴者(健常者)」と言葉にする時、線引きが生まれ分類が始まる。斎藤が子供にまつわる文章を書く時は、子供の名前の後に、「コード：Children of Deaf Adults 聞こえない親を持つ聞こえる子供」と解説を入れなければならない。斎藤夫婦は聾者、子供たちはコードであること、それも事実だ。しかし、このように分類することで、悲しみ、呻き、慈しみの想いが単純化されることへの躊躇いが拭えない。

私たちは無意識のうちに共感を求めている。人は肩書でなく、共感で集い、生きる。小説、映画、音楽・・・、川柳も共感できるか否かが評価軸となる。受け身で共感するだけではない。句会では“共感して欲しい”と寄りすぎり、懇望する。それぞれ違う生きようを経てきた人々が句会で、「大共感時代」の空気を一緒に吸う？これって異様です。斎藤は「言葉は存在を分離する」と語ったが、安易な共感は分断を生むと明弁する。

斎藤は豊者というマイノリティ属性を背負いながら、写真家、文筆家としてのマジョリティ属性も併せ持つ。その職業を通した社会的経験が、斎藤を安易な共感に走らせない。「家族をひとまとめにする甘えを退け、どれほど近い間柄にあっても通じ合うことの出来ない異なりがあることをわきまえたい」と語る。句会も一緒である。孤独を持つ者同士として、そこから育み合い、人間の可能性を託す。斎藤陽道からは、新川和江と疎通する哲理を感じている。

さて、終生初心者と得心している私は、類想句を幾つか創り、そこから選んで句会に提出することがある。敢えて数句並べる。ところで私は、相撲が大好きです(参照:「縁は異なるもの味なもの」(財)昭和経済研究所、Web マガジン、2024年8月、P.23)。そして今年の9月は、2014年9月の御嶽山噴火から丁度10年。戦後最大の火山災害犠牲者(死者58人、行方不明者5人)に、まずは謹んで哀悼の意を表します。そして、相撲と御嶽山が交錯する御嶽海を詠むことから始めたい。

山が海？正体不明 御嶽海

山なしは 海なし県に変えましょう

大雪で SOS のレッカー車

大雪に はまった JAF も SOS

新幹線 60 年越え新幹線

50 年前の開発 ニュータウン

ウミを出せ！言ってる上司 ウミの素



毒舌に とっても弱い毒舌家

強情な人も 素直な人が好き

さからわず おだてにのらず したがわず

嘯みあえば味方 嘯みつけば敵方

愛飲家ビール値上げに泡を食う

財布には通りすがりのツーリスト

空き家増えているのに増えるプチメゾン

指揮者って客に尻向け棒を振る

3 - 2 詠んで楽しみ 読んで笑う

「60年経って新幹線なら、この先も我々朗夫婦は新婚だ」と一笑した。ところで、数年前になるが、老後は年金にプラス2000万円が必要という政府見解が流れていた。最近では5000万円とも聞くが……。しかし、これは、おかしい。住んでいる場所や当事者の生活習慣によって、老後に必要な資金は様々だ。それに、老後の生活はそれぞれの事情で個々人自らが考えている。

ところが、政府は「NISA(小額投資非課税制度)での運用を」と投資を働きかける。投資の本質はギャンブル。老後資金を競馬・競輪・競艇・オートレースなどの公営競技やパチンコ・パチスロに使うのと同じだ。自動的に儲かる投資などない。終局はゼロサムゲームとなる。しかも、中・高校生が対象の「こどもの投資教育・実践体験プロジェクト」があるとか。小学校では投資に関する学習を取り入れ、某放送局のTVニュースは最後に株価動向を示す。(多くの国民の関心は、株価より米価と思いますがねえ……)

私たちは、一人ひとりが自分の生きる世界を持っている。政府の役割は、高齢者が働きやすい環境を整え、支え合える社会保障の形を考えることなのに、これでは国民へのリスクがまるで感じられない。老後の不安を煽って投資の活性化に導こうとする一方で、現在投資している約半数が損失を出していることには触れない。私たちはお金だけに

生きる動物ではない。裏金をつくる手段も持ち合わせていない。

政府には、国民の一人ひとりがコツコツと築きあげて来た生活スタイルへの気遣いが欲しい。企業優先の規制緩和に依る非正規雇用の増加、庶民に先ず課すのが自分で行う自己責任、沖縄辺野古の基地建設・・・これらに垣間見るのも、リスペクトすることなく力任せで押し切る政治だ。「四海波静か」は遠い。(ちょっと飲みたくなった。少し飲んでから川柳を詠もう)

鍵かけた筈の心を開ける酒

フグ料理オレがさばけばしびれるぜ

もうすぐに肉になるとは知らぬ豚

串刺され焼かれ揚げられ塩ふられ

夏の敵 冬は味方の体脂肪

『がんばらない』本をがんばり読んじゃった

尺取り虫 お見事ペース崩れない

旅すれば何処も彼処も日本一

摩訶不思議ふれあい通りはヒトデナシ

散歩後は車で新聞買いに行く

帰路につき不意に浮かんだ捨てゼリフ

特売のチラシの裏に詠む川柳

おわりに

パレスチナ自治区ガザの停戦交渉を巡り、その進捗動向は不透明だ。ガザ保健当局に依れば、戦闘開始後のガザ側の死者は4万1千人を超えた(2024年9月10日現在)。これ程の人が亡くなっているのに、私は川柳を詠むことに、うつつを抜かしている。遠い地域や目の前に在る幾つもの壁を前に、ぶつかり、弾き飛ばされ、自分を問い直し、発信している。足元を見詰め、一つひとつの言葉に命を吹き込んでいる。句会のメンバーは多士済々。年を重ねても教わることが多く、「心機一転」に遅いはない。

こんな時に前を向いて共に歩き、分かち合える共見者がいれば、どれほどの大きな支えになるだろう。ここに在るのは共に並び立つ共見の関係性である。たくさんある壁に揺れながら、今を生きる自分の間を共有し、課題を一緒に見つめる共見者。川柳を詠むことの出来る日常は平和で幸せだ。詠んで楽しみ、読んで笑う川柳。完璧を求めず、こだわらず、とらわれず。社会から少しだけ外れ、静かに、のんびりと、最も捨てたくない価値観を17文字に託す。(文中の敬称略)

参考文献

麻生直子編『女性たちの現代詩』梧桐書院

新川和江『詩が生まれるとき』みすず書房

斎藤陽道『よっちぼっち一家族四人の四つの人生一』暮らしの手帖社

佐々木晃彦『豊かさの社会学—変革の時代の生きがいを求めて—』丸善

プロフィール 佐々木晃彦(ささき・あきひこ)山形県生まれ。九州共立大学名誉教授(文化経済学)。「お笑い台本」の世界を経て2017年より市川一に師事、川柳創作に取り組む。作品は『川柳さわやか』No.401(読売多摩川柳クラブ、2018)、市川一編『川柳のあしあと』(川柳文庫、2022)、市川一編『日野本町川柳』(2017年7月号～2024年5月号)、『川柳かわせみ』(日野柳友会、2024年7月号～)に収録。